

高度情報化方策との関連のもとでのニュータウン開発事業実現化に関する研究

立命館大学理工学部 正員 春名 攻 大阪府土木部 正員 藤田 健二
第一技研コンサルタント 正員 金城 昌幸

1. はじめに

ニュータウン（以下、「NT」と略記）開発や、既成市街地の再開発等の面整備、さらには交通施設をはじめとする都市施設整備に関する計画等においても、従来と異なった考え方、方法を用いて、策定・実施されなければ、初期の計画目的・目標や開発効果等を十分に達成することはできない状況となってきた。また、わが国の経済的力量からすれば、平均水準を高度に達成しうる能力は十分に備えたとはいえるが、一方では、その地域を他地域とは異なる特徴を有し、かつ発展性を持つ地域として整備していく工夫（アイディアとその実現）が望まれる時代へと移行してきている。

そこで、本研究では新しい開発テーマをもつテーマオリエンティッドなプロジェクトの中から、高度な情報サービスシステムを備えた新しい都市づくりとしてのNT開発事業実現化に関して、高度情報化方策との関連のもとで、事例研究を踏まえて考察することとする。

2. 都市・地域開発実現化のためのキーファクター

現段階においては、地域の活性化や振興を図るといふ目的を確実に達成しようようなプロジェクトの内容を的確に設計したり、実施に移していく方法に関するノウハウはいまだ確立されてないといえよう。プロジェクトの企画や設計に携わる人々にしても、過去に経験もなく、頼るべきノウハウの蓄積もない状態では、自信をもって企画の立案や計画化を行うことができない状況にあるといえよう。

よって、高度情報化を含む多様化への対応を前提とした地域・都市づくりにおいては、新しい計画のパラダイムの確立と、それを通しての計画技術の確立が重要である。

さて、新しい開発テーマを掲げる都市開発プロジェクトは、従来の抽象的・包括的なテーマの下での

プロジェクトより、理解されやすい。しかし、地域の人々や企業にとって大切なことは、その開発プロジェクトがどのような形で具体的効果を発揮するかということ、言い換えれば、その開発プロジェクトの具体的な意味付けなのである。この点に関して、このような開発プロジェクトの成功にとっては、事業関係者の間の共通の価値観・地域文化の育成が重要である。このことも、この意味付けと強く関連しており、この内容を明確（明示的）に表して具体的に論じることが、成立性の大きい望ましい地域開発プロジェクトを策定していく上で重要なのである。

このため、現在各地で取り上げられているテーマオリエンティッドな都市開発プロジェクトの企画・構想の方法論の設計においては、図-1の構成図に示すように、

- ①地域開発戦略（Strategy）の立案と、これに対応した地域開発の目標イメージの明確化のプロセスの構築、
- ②目標イメージ達成のための組織的機構（Structure）の設計、

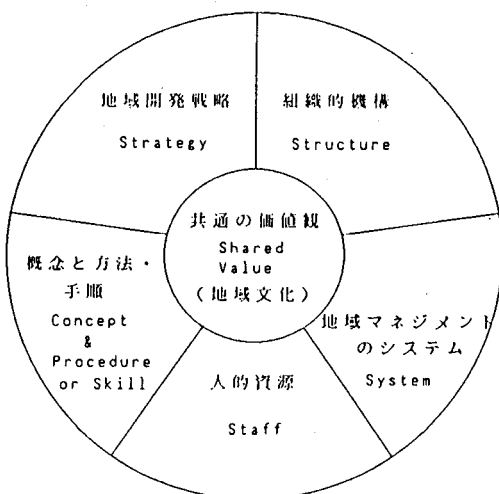


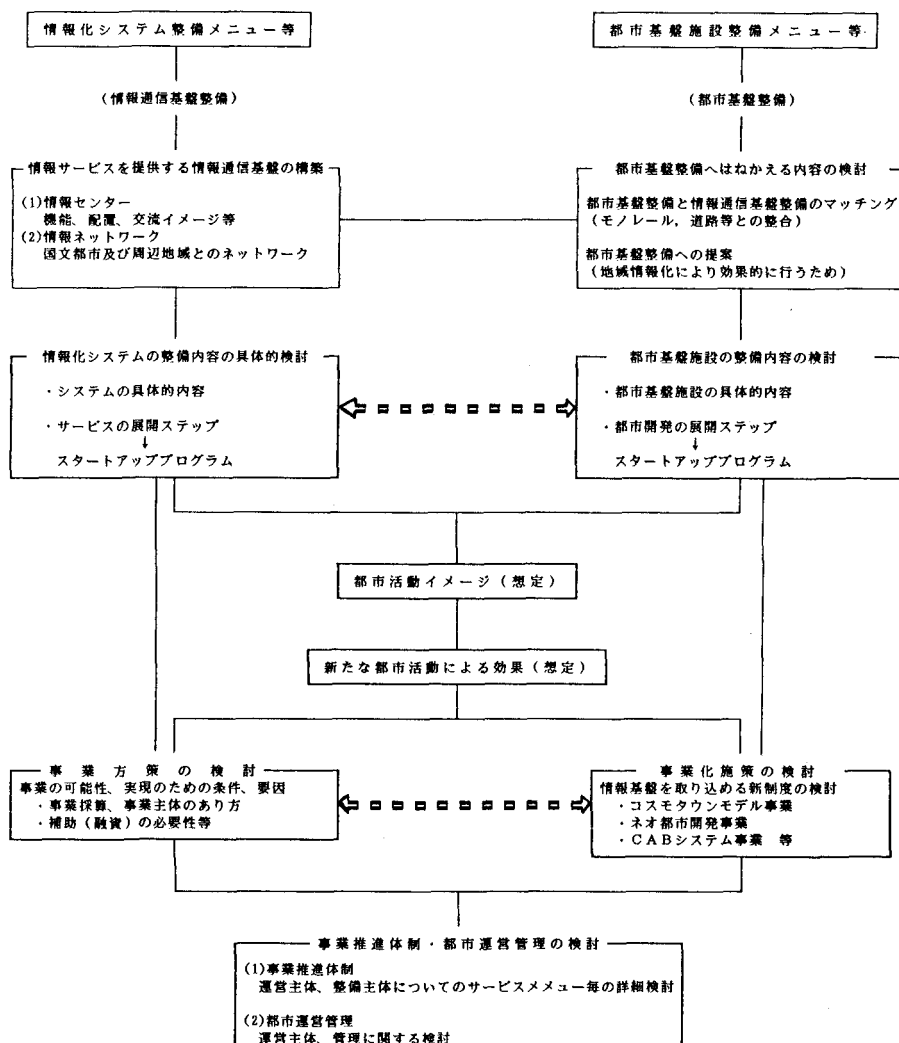
図-1 都市・地域開発実現化のためのキーファクター

Mamoru HARUNA, Kenji FUJITA, Masayuki KANESHIRO

つまり、「こんな開発であって欲しい」というニーズを受け、または先取りし、当該地域の持つ資源（人的、物的、歴史的）と立地ポテンシャルを含めて、「資源を時間軸の中で十分活用」して、「こう開発すべき」というポリシーを持つことが必要である。さらに、開発関係者や地元等の同意が得られるようバランスのとれた開発論理を構築することが、

多様化社会における都市開発においては必要である。

また、高度情報化都市という先例の少ない、新しい開発においては、より都市のイメージを具体的に、かつ鮮明にしておく必要がある。そこで、北大阪地域にインテリジェントシティとして建設が企画・構想されているNTにおいては、図-3に示す調査プロセスのもとNT開発事業実現化に向けて検討が行



※ ⇔ □ □ ⇨: 密接に関連し、オーバーラップする関係

図-3 調査プロセス

われている。

ここでは、特にハードとソフト（例えば、都市基盤施設としての情報装置と運営等）や官民の仕分け、さらに図-3の中で示すように領域がオーバーラップする業際・業間的な部分についての検討が重要である。

当NT建設事業の先端性等を対外的にアピールでき、地域の一体化、活性化のトリガー的役割を担うためにも、スタート期から発展期にかけての始動時（スタートアッププログラム）が重要な意味をもつと考えられる。

そこで、当NTの個性化、魅力化を他に示すことができ、このことにより、人材が企業等の吸着、定着等が行われるようスタートアッププログラムを、基盤、施設、機能、仕組み等の面においてそれぞれ構成する必要がある。

よって、当NTにおいては図-4に示すように、あくまでも仮想のもとではあるが、水準・規模等を含め思考シミュレーションを行うことで、事業実現化をより具体のものとしている。

5. おわりに

本研究では、インテリジェントシティ建設の構想を有するNT開発を題材として、開発実現化のためのキーファクターについて考察を行ったが、紙面の関係上、説明不足となった点については、講演時に示すこととする。

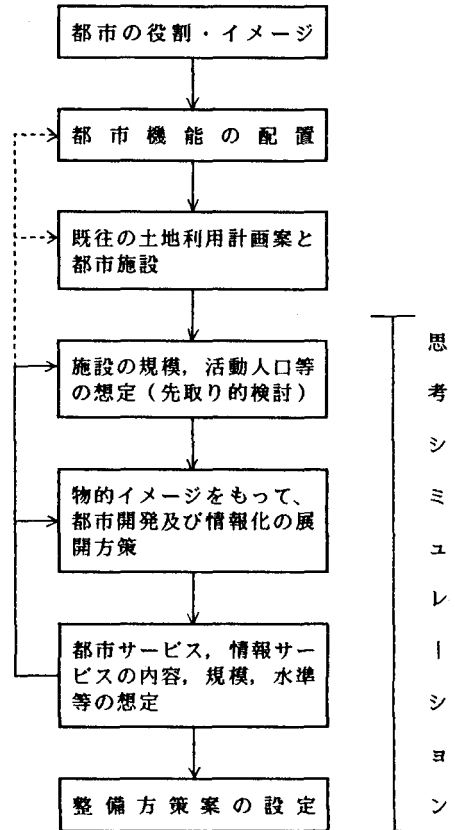


図-4 思考シミュレーションの流れ